令和６年度（令和５年度実施事業分）主要事業評価各課総括表・２次評価表

２次評価者

教育部図書館　　教育部長　森田　知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
33-1	図書館一般事務	C	集客に課題があったイベント等の内容を見直すとともに、人気のある事業は定員を増やす等の工夫し、事業参加者数の増加につなげることができた。また、三か月児健診時に行う「あかちゃんとしょかん」での貸出券発行や、学校を通じて希望者に貸出券を発行することを継続して行い、図書館への来館のきっかけ作りに努めた。 講座・イベントの中には、募集人数に達していない事業があることから、興味を引くような内容に見直すとともに、イベント等のターゲットとなる市民に効果的に情報が届く広報に努める必要がある。	改善推進	申込制が不要である事業に関しては、申込制をなくし、気軽に来てもらえるような企画・運用を行う。また、企画課のLINEによる広報で普段図書館を利用しない人にもイベントが周知できるようにするなど工夫し、来館のきっかけ作りを行う。
33-2	図書館資料整備事業	C	新刊購入のほか、古くなった良書の買い替えや、児童生徒向けの多言語資料、高齢者向け紙芝居の購入を積極的に行う等、全世代に向けた資料の充実を心掛け、提供に努めることができた。特に、電子書籍については、複数の利用者が同時に閲覧できる環境を整えるなど、学校タブレットを有効利用した読書活動につながっている。 図書館界では全国的に貸出冊数の減少が問題となっているが、当館でも例外ではない。特に利用の少ない高校生から働く世代、また外国にルーツのある人たちに知識・情報提供ができるよう、より興味を持たれる選書の実施・サービス提供の方法の見直しを行う必要がある。	改善推進	紙資料の充実を図ることはもちろんであるが、利用登録のオンライン化の模索・電子図書館の充実など、非来館型サービスの提供を拡充することで、新しい利用者を開拓し、学びの提供を行えるよう努める。 子ども読書活動推進計画に従い、乳幼児から中学生までを対象とした年齢に応じた資料の充実のほか、国籍や障がいに影響されない学びを得られるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。

課等長 C	１次評価（令和５年度の総括評価） 新型コロナが収束し、イベントの定員や制限を解除したことで、事業参加者数が目標値を上回ったことはよかったが、貸出冊数が減少を続けているため、今後は様々な世代やハンディキャップのある方にとっても魅力的で親しみやすい図書館を作ることで、貸出冊数の減少を抑えてほしい。 学校タブレットによる電子図書館の利用を市内全小中学校に広げたことで、電子書籍の利用が飛躍的に増えた。子どもの活字離れが進むなか、小中学生の読書機会を増やすことができたことはよかった。
部等長 C	２次評価（令和５年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項） 講座・イベントの参加者数が増加したことはよかったが、今後は、市民のニーズに沿った企画や効果的なＰＲで、これまで図書館に足を運んだことのない人にも参加してもらえるよう努めてほしい。 全国的にも図書館の来館者や貸出冊数は減少傾向にあるが、逆に、あかちゃんとしょかんや学校支援事業など図書館の外に目を向けたアウトリーチサービスに注力したことは、評価できる。今後も継続していってほしい。

令和６年度（令和５年度実施事業分）主要事業評価シート					No.	33-1
PDCA	主要事業名	図書館一般事務	部課名	教育部図書館	担当	太田
					内線	23-7171

P（目標項目（予算計上時に作成））

総合計画： 1 － 2 － 1 単位施策： 学びの推進

全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 8,858 千円

会計 一般会計 歳出科目： 09.05.03.02.01

事業概要等

- 事業概要： 年齢や障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もが本に触れ、情報を得、読書を楽しめる環境づくりを進める。利用者サービスの向上として、ＷＥＢからの在架予約を開始する。乳幼児期から発達段階に応じた読書支援や障がい者、高齢者へのサービス提供を実施する。
- 事業目的： より多くの方に図書館及び図書館資料を利用してもらい、読書活動を推進する。
- 事業内容： あかちゃんとしょかんを始めとした乳幼児期からの読書支援、学校支援事業（ブックトーク、調べ学習お届け便など）、高齢者及び障がい者への読書支援、各種講座・イベントの開催。
- 問題点・課題等： 生活環境の変化などにより活字離れが進んでおり、乳幼児期からの継続的な読書支援が必要である。また、利用者のニーズにあったサービス提供が必要である。

予算額 8,858 千円

財源内訳

市費 8,343 千円

国費 0 千円

県費 0 千円

その他 515 千円

主要事業とする理由

子どもの活字離れが進んでおり、その読書活動を推進する必要があることと、図書館と図書館資料の利用促進を幅広く行う必要があるため。

得られる成果

子どもの読書活動推進と図書館及び図書館資料の利用推進につながる。

目標値や目指すべき状態		令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
図書館事業参加者数	実績値	4,465	7,213	－	人
	目標値	11,500	9,000	7,000	人
	実績値				
	目標値				
	実績値				
	目標値				

予算見積書で活用

D（評価項目（決算時に作成））

得られた成果と実績

決算額 8,422 千円

得られた成果

各種講座やイベントなどコロナ禍以前の運営形態に戻すとともに、内容を見直すなどした結果、より多くの市民の参加があり目標値を上回ることができ、図書館の利用促進につなぐことができた。

成果指標		令和５年度	単位
図書館事業参加者数	実績値	7,700	人
	目標値	7,000	人

主要施策の成果報告書で活用

C 課題の整理

事業の評価・課題

C

集客に課題があったイベント等の内容を見直すとともに、人気のある事業は定員を増やす等の工夫し、事業参加者数の増加につなげることができた。また、三か月児健診時に行う「あかちゃんとしょかん」での貸出券発行や、学校を通じて希望者に貸出券を発行することを継続して行い、図書館への来館のきっかけ作りに努めた。
講座・イベントの中には、募集人数に達していない事業があることから、興味を引くような内容に見直すとともに、イベント等のターゲットとなる市民に効果的に情報が届く広報に努める必要がある。

A 課題解決に向けた今後の方向性

今後の事業の方向性

改善推進

申込制が不要である事業に関しては、申込制をなくし、気軽に来てもらえるような企画・運用を行う。また、企画課のLINEによる広報で普段図書館を利用しない人にもイベントが周知できるようにするなど工夫し、来館のきっかけ作りを行う。

観点別評価

必要性		有効性		効率性	
①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない

令和６年度（令和５年度実施事業分）主要事業評価シート					No.	33-2
PDCA	主要事業名	図書館資料整備事業	部課名	教育部図書館	担当	竹内由香
					内線	23-7171

P

総合計画： 1 － 2 － 1 単位施策： 学びの推進

全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 33,291 千円

会計 一般会計 歳出科目： 09.05.03.02.02

事業概要等

事業概要：	利用者のニーズに合った図書資料を幅広く整備するとともに、地域情報の集約場所としての機能を維持し、魅力ある図書館づくりを行う。また、子ども読書活動推進計画に基づき、電子書籍を含む児童図書の充実を図るとともに、市内小中学校との連携を進める。障がいのある方や高齢者、外国籍の市民等にも配慮した資料の収集や、電子書籍の利用拡大など、読書の機会拡充に努める。
事業目的：	幅広い年齢層の利用者にとっての魅力ある図書資料及び電子書籍を充実させ情報提供に努めることで、市民の学びを支える。
事業内容：	一般図書、児童図書、視聴覚資料、新聞、電子書籍等について司書が内容を確認し購入する。
問題点・課題等：	コロナ禍以降、回復の兆しを見せてはいるものの、図書館利用者数、貸出点数が減少傾向にある。

予算額 33,291 千円

財源内訳

市費 32,099 千円

国費 0 千円

県費 0 千円

その他 1,192 千円

主要事業とする理由

公共図書館として、市民の知的好奇心を満たし、生涯を通じて学び続けられるよう、ニーズにあった幅広い図書資料を整備する必要があるため。

得られる成果

より多くの市民の学びの支えとなる。

目標値や目指すべき状態		令和３年度	令和４年度	令和５年度	単位
市民一人当たりの貸出点数（図書）	実績値	7.2	7.0	—	点
	目標値	8.5	7.5	7.5	点
電子書籍貸出点数	実績値	9,466	6,933	—	冊
	目標値	—	—	18,000	冊
	実績値				
	目標値				

予算見積書で活用

目標項目（予算計上時に作成）

D 得られた成果と実績値

決算額 8,422 千円

得られた成果

各種講座やイベントなどコロナ禍以前の運営形態に戻すとともに、内容を見直すなどした結果、より多くの市民の参加があり目標値を上回ることができ、図書館の利用促進につなぐことができた。

成果指標		令和５年度	単位
市民一人当たりの貸出点数（図書）※電子書籍は含まず	実績値	6.9	点
	目標値	7.5	点
電子書籍貸出点数	実績値	25,724	冊
	目標値	18,000	冊

C 課題の整理

C

新刊購入のほか、古くなった良書の買い替えや、児童生徒向けの多言語資料、高齢者向け紙芝居の購入を積極的に行う等、全世代に向けた資料の充実を心掛け、提供に努めることができた。特に、電子書籍については、複数の利用者が同時に閲覧できる環境を整えるなど、学校タブレットを有効利用した読書活動につながっている。
図書館界では全国的に貸出冊数の減少が問題となっているが、当館でも例外ではない。特に利用の少ない高校生から働く世代、また外国にルーツのある人たちに知識・情報提供ができるようより興味を持たれる選書の実施・サービス提供の方法の見直しを行う必要がある。

A 今後の課題解決に向けた方向性

今後の事業の方向性

改善推進

紙資料の充実を諮ることはもちろんであるが、利用登録のオンライン化の模索・電子図書館の充実なぢ、非来館型サービスの提供を拡充することで、新しい利用者を開拓し、学びの提供を行えるよう努める。子ども読書活動推進計画に従い、乳幼児から中学生までを対象とした年齢に応じた資料の充実のほか、国籍や障がいに影響されない学びを得られるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。

観点別評価

必要性		有効性		効率性	
①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない

主要施策の成果報告書で活用

評価項目（決算時に作成）